D 6　動作にともなうタイトスカートのシルエットの変化（第一報）

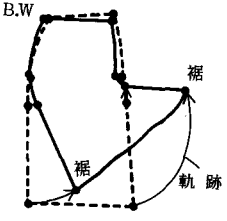
―― 側面からみたシルエットの連続的変化 ――

実践女大家政　○松岡久美子　安藤眞奈美　平岡和香子

（目的）H．Lより下を円筒形とみなし作図するタイトスカートは、動作にともなう運動量をスリット、プリーツによって求めることが一般的であるが、それらの算出の基準はない。動作に適合した運動量設定には動作にともなうタイトスカートのシルエットの変化を形状、数量ともに把握することが前提となる。第一報ではその右側面の変化を動作終了時のみの変化ではなく、終了までの連続動作としてとらえその変化過程を定量的に把握することを目的とした。

（方法）被験者は２３才成人女子、パターンは下肢の横断面重合図から作成した。スカート丈は膝蓋骨中点までとしスリットのないタイトスカートを作製し実験衣とした。タイトスカートのウエスト・殿部後突位・殿溝位・裾線の動作による変化を動作解析装置を使用して右側面から５回計測した。計測は歩行・ステップ・椅座位の３動作について行った。計測点の軌跡・水平・垂直方向の変化量からスリットがない場合の動作の限界点までのシルエットの連続的変化を定量的に求めた。第４３回大会で報告した下肢の形状変化との関係についても検討した。

（結果）１図にステップにおけるシルエットの変化、計測点の軌跡を示した。変化量は前裾が最大で平均５０８㎜を示した。外果点の移動の限界は本実験衣では水平方向平均約１７７㎜、垂直方向平均約３４４㎜であった。この移動量は人体のステップ動作の膝屈曲角約４７度に相当する。



１図　シルエットの変化